

平成 30 年度  
事業計画書

島根県西部視聴覚障害者情報センター

## 目 次

1 事業運営計画	P 2
2 課題解決に向けた取組	P 3
3 事業実施計画	P 9
【点字図書館事業】	P 9
【聴覚障害者情報提供施設事業】	P 1 0
【地域生活支援事業】	P 1 1
【行事、会議等の開催計画】	P 1 2
【施設内研修計画】	P 1 3
【安全衛生計画】	P 1 3
【その他の計画】	P 1 3

## 1 事業運営計画

事業の名称				
1 点字図書館事業				
2 聴覚障害者情報提供施設事業				
3 地域生活支援事業				
運営方針				
法人の「運営の基本理念」、「運営の基本方針」、「平成 30 年度重点活動方針」を実現するため、次のとおり施設の方針を定め事業運営にあたる。				
1 管内地域住民にセンターの事業内容の周知を図り、利用者の拡大につなげる。				
2 関係行政機関、障がい者団体等との連携を深め、あらゆる機会を通じて利用者ニーズを把握し、ニーズに即したサービスの提供に努める。				
3 情報化の進展等に対応し、視聴覚障がい者が等しくセンターを利用できるよう、多様かつ効果的なサービスの提供に努める。				
4 センターの業務遂行に必要な資格の取得をはじめ職員の専門的能力の向上を図る。				
5 各種ボランティアの確保に努め、養成講習やスキルアップ研修の充実を図るとともに、意欲的な活動を促進する。				
6 最新の機器の情報提供・貸出し・斡旋、生活訓練等に積極的に取り組み、視聴覚障がい者の自立、社会参加につなげる。				
7 地域生活支援事業で市町が対応できない広域的・専門的的事业については、島根県と協議し、可能な限り支援する。				
8 センターの持つ機能を社会資源として可能な限り地域に開放し、学校や団体の福祉学習を始めとする地域活動の実施を通して共生社会の実現に努める。				
9 「島根あさひ社会復帰促進センター」を効果的に活用する。				
職種別職員配置				
職種	正規職員	準職員	非常勤職員	合計
施設長	1			1
事務職員	3	2		5
合計	4	2		6

## 2 課題解決に向けた取組

## 『利用者の拡大』

課題	<p>地域住民にセンターが十分に認知されておらず、管内の視聴覚障がい者の利用登録率が低いため、あらゆる機会をとらえてセンターの存在及びサービス内容の周知を図る必要がある。</p> <p>センターを知っていても利用しない視聴覚障がい者がいることから、対象者のニーズに即し、利用の増加につながるようなサービスを提供していく必要がある。</p>
現状	<p>平成 29 年 3 月末の管内の視聴覚障がい者数は、2,286 名（視覚 846 名、聴覚 1,440 名）で、そのうちセンターの利用登録者数は 364 名（16%）にとどまっている。</p> <p>個人情報保護のため市町から視聴覚障がい者の情報を入手することができなくなり、利用対象者への直接の働き掛けが困難になった。市町の担当窓口には身体障害者手帳の申請時等にセンターの紹介と資料配布を依頼するとともに、市町の広報紙で利用を呼び掛けてもらうなど PR に努めているが、十分な成果が出ていない。</p> <p>近年、テキストデージー図書製作・貸出し、「スカイプを使った電話リレーサービス」等の新サービスを開始しているが、利用登録の増加に結び付いていない。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の広報媒体を使ってセンターの業務内容の周知を図るよう依頼する。</li> <li>・各市町の福祉窓口でセンターのパンフレットや利用案内（墨字・点字・録音）、広報用チラシを送付し、身体障害者手帳の申請時等にセンターの紹介と適切な資料の配布を依頼する。</li> <li>・各市町又は各市町社会福祉協議会の広報紙及びホームページにセンターの紹介記事を掲載するよう依頼する。</li> <li>・国や県の機関、公共施設、社会福祉施設、眼科医等を訪問し、来訪者へセンターの広報用チラシを配布するよう依頼する。</li> <li>・センターが参加するイベントで広報用チラシを配布する。</li> <li>・センターのホームページ及びフェイスブックで施設情報を発信する。</li> <li>・新たな手話動画を制作し、ホームページに掲載する。</li> <li>・昨年度から開始した「スカイプを使った電話リレーサービス」について、チラシ配布等により周知を図る。</li> <li>・毎年開催している事業推進会議、関係機関・団体との個別協議等で提出される意見や要望を基に利用者ニーズを把握し、利用の増加につながるような新サービスの提供を検討する。</li> <li>・引き続きマルチメディアデージー図書製作の可能性を検討する。</li> </ul>

## 『関係機関・団体との連携』

課題	<p>視聴覚障がい者の自立生活、社会参加の促進に向け、関係機関・団体との意見交換等を行い、相互の連携をより緊密にするとともに、センターの事業の周知や見直しを通して利用者の拡大につなげていく必要がある。</p> <p>意見交換等で明らかになった各市町の課題について、対応方針等を確認し、センターとして課題解決に向けた取組にできる限り協力していく必要がある。</p>
現状	<p>行政機関、視聴覚障がい者団体、ボランティア団体等との情報共有、意見交換の場として年1回「事業推進会議」を開催するとともに、各市町、社会福祉協議会等を訪問し、センターの事業計画等の周知、サービスに対する意見や提案の聴取、各機関・団体の課題、取組等の情報交換を行っているが、視聴覚障がい者の自立生活、社会参加に向けた関係機関・団体との十分な連携、取組の進展につなげていない。</p> <p>特に各市町に対しては、各地域で活動する点訳・音訳奉仕員の養成・確保等の取組を要請しているが、点訳・音訳奉仕員の養成が任意事業に位置づけられたことなどから実現できていない。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月下旬に事業推進会議を開催し、センターの現状や課題、本年度事業計画、利用者の実情やニーズ等について意見交換を行い、事業の推進に協力を求める。</li> <li>・9～11月に各市町を訪問し、事業推進会議で取り上げられた課題のフォローアップ、平成31年度における新たな取組等について意見交換を行う。</li> <li>・必要に応じて浜田ろう学校、全視情協島根あさひ事業所、各市町社会福祉協議会等を訪問し、意見交換を行う。</li> </ul>

## 『各種ボランティアの養成・確保』

課題	<p>近年、センターが開催する各種ボランティア養成講習会の受講者が少数にとどまっており、様々な方法でボランティア募集の周知を図る必要がある。</p> <p>情報化の進展によりボランティア活動に必要な技術が高度化しており、養成講習修了者に対するスキルアップの機会を設け、より実践的な技術を身に付けたボランティアを育成していく必要がある。</p> <p>意欲のあるボランティアに対しては、モチベーションを維持し、長期にわたって活動してもらえるよう、高度な技術を身に付ける機会を提供する必要がある。</p>
現状	<p>点訳、朗読、デイジー編集、テキストデータ編集の各ボランティアの養成講習会において、近年、受講者数がいずれも10人未満にとどまっている。</p> <p>修了者の登録率は高くなっており、結果的に登録ボランティア数は微増となっているが、登録者の高齢化や身に付けるべき技術の高度化、家族の介護等で活動を継続できない登録者もあり、必要な実働ボランティア数を確保できていない。</p> <p>このため、将来の点字図書館事業の安定的・持続的な実施が懸念される状況となっている。</p>

実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の広報媒体を使って各種ボランティア募集の周知を図るよう依頼する。</li> <li>・各市町又は各市町社会福祉協議会の広報紙及びホームページにボランティア募集記事を掲載するよう依頼する。</li> <li>・退職予定の教職員、公務員へボランティア募集チラシを配布するよう依頼する。</li> <li>・国や県の機関、民間団体、企業等を訪問し、ボランティア募集チラシの従業員回覧や来訪者配布を依頼する。</li> <li>・各地域で企業等が行っているパソコン講習の受講者にボランティア募集チラシを配布するよう依頼する。</li> <li>・養成講習修了者を対象としたスキルアップ講習会を定期的を開催する。</li> <li>・ボランティアグループの自主的勉強会に職員を派遣し、スキルアップを支援する。</li> <li>・高度な技術の習得に意欲的なボランティアを点字指導員講習会、音訳指導技術講習会等に派遣する。</li> </ul>
------	---

### 『意思疎通支援者等の養成・確保』

課題	<p>視覚障がい者の自立生活、社会参加を促進するため、同行援護従事者、ガイドヘルパーの養成を支援するとともに、代読・代筆の能力を有する人材の育成を促す必要がある。</p> <p>聴覚障がい者の自立生活、社会参加を促進するため、各市町の手話奉仕員養成の取組を支援する必要がある。</p>
現状	<p>国の障がい者施策が見直され、同行援護、代読・代筆、手話通訳、要約筆記等の利用が増加することが予測されているが、これを担う人材の養成が進んでいない。</p> <p>特に手話通訳者及び要約筆記者については、東部地域と比較して養成が後れ、登録者が少ないが、要約筆記者については、平成 29・30 年度の養成講習会が浜田市で開催されており、その成果が期待されているところである。</p> <p>手話通訳者については、平成 29・30 年度の養成講習会が大田市で開催されており、西部地域のいくつかの市町においては、今後の手話通訳人材の確保等のため、手話奉仕員の養成が進められている。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会等が行う同行援護従事者及びガイドヘルパーの養成研修に職員を講師として派遣する。</li> <li>・各地域で活動する点訳・音訳奉仕員の養成・確保について、各市町、ボランティア団体等と今後の対応を協議する。</li> <li>・市町が実施する手話奉仕員養成講習に対して人的な支援（講師派遣、相談等）を行う。</li> </ul>

## 『職員の専門的能力の育成』

課題	<p>限られた人員で効率的に業務を遂行するため、一人の職員が複数の資格や専門的な能力を身に付ける必要がある。</p> <p>視聴覚障がい者を取り巻く状況を把握し、社会福祉制度や日常生活用具等の情報を利用者や関係機関・団体、支援者等へ的確に提供できるようにする必要がある。</p>
現状	<p>当センターの業務遂行に必須の資格と専門的能力のうち、歩行訓練士は2名、点字指導員は1名、音訳指導員は3名、視覚障がい者 ICT 活用支援能力は2名、手話通訳能力は2名の職員が保有している。</p> <p>視聴覚障がい者にとって有用な機器やソフトは、スマートフォンのアプリなど専用の機器やソフトに限らず、情報化の進展で変化が激しく、常に最新の情報を収集し、機器やソフトを使いこなせるようにしておかなければ、利用者の高度なニーズに答えられない状況になっている。</p>
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一昨年度、職員の一人が点字指導員資格認定講習を受講するための事前の試験に合格したことから、引き続き OJT を実施し、点字指導員の資格取得を目指す。</li> <li>・全国視覚障害者情報提供施設協会、中国四国点字図書館連絡協議会等が主催する研修会に職員を派遣する。</li> <li>・年間6回の所内研修を行い、視聴覚障がい者を取り巻く社会状況、社会福祉制度、日常生活用具等について理解を深める。</li> </ul>

## 『視覚障がい者の ICT 活用の支援』

課題	<p>パソコン、プレクストーク（視覚障がい者用ポータブルレコーダー）等の情報機器を使用していない視覚障がいの利用者とその利用を促す必要がある。</p> <p>高度化する利用者のニーズに応えるため、職員の視覚障がい者 ICT 活用支援能力を高めるとともに、必要に応じてボランティアの技術向上を図る必要がある。</p> <p>情報機器を使用できない利用者に配慮した情報提供に努める必要がある。</p>
現状	<p>視覚障がい者への情報提供媒体は、紙や CD などの実物からインターネット配信へと移行しつつある。</p> <p>また、測位衛星の位置情報を使って視覚障がい者の歩行を支援するスマートフォンのアプリ等、視覚障がい者の生活の利便性を高めるさまざまな機器やソフトが開発されている。</p> <p>今後、情報化の進展により、視覚障がい者の ICT 活用技術はますます重要になっていくものと予想されている。</p> <p>反面、最新の情報機器を使えるかどうかで、視覚障がい者の情報格差が広がったり、生活の質に差が生じたりする懸念がある。</p>

<b>実行計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機会を通して視覚障がいの利用者に情報機器の利用を呼び掛け、そのための講習等を実施する。</li> <li>・OJT等により職員の視覚障がい者 ICT 活用支援能力を高める。</li> <li>・必要に応じてパソコンボランティアのフォローアップ講習を実施する。</li> <li>・情報機器が使用できない利用者に対して、センターがリクエストに応じて「サビエ」等から情報をダウンロードして提供する。</li> </ul>
-------------	---

### 『機器情報の提供』

<b>課題</b>	<p>補装具・日常生活用具等の技術開発は目覚しく、利用者に最新の機器やソフトの情報を積極的に提供していく必要がある。</p> <p>カタログだけでなく、利用者が実際に機器を試用し、その利便性を確認の上で購入することが大切であるため、最新の機器の整備に努める必要がある。</p>
<b>現状</b>	<p>利用者から寄せられる機器やソフトの使用についての相談や問い合わせの内容が高度化しており、最新の情報を収集し、機器やソフトに精通していなければ十分に対応できない状況になっている。</p> <p>平成 12 年のセンター開設時に整備された展示用の補装具・日常生活用具等の多くが陳腐化しており、平成 24 年度にその一部が更新されたが、依然として旧式のものや販売中止になっているものが多数残っている。</p>
<b>実行計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者向け新聞・雑誌、インターネット、メーカー等から最新の機器やソフトの情報を収集し、利用者に提供する。</li> <li>・管内 4 箇所で開催機器展示相談会を開催し、展示用補装具・日常生活用具やメーカー出展の最新機器等により来場者への紹介、試用等を行う。</li> <li>・予算の許す限り展示用補装具・日常生活用具等の更新を行う</li> </ul>

### 『地域活動の実施』

<b>課題</b>	<p>視聴覚障がい者にとって暮らしやすい共生社会の実現に少しでも貢献できるよう、ボランティアや意思疎通支援者、視聴覚障がい者団体等の協力を得て、予算、マンパワーが許す限り積極的に地域活動を行っていく必要がある。</p>
<b>現状</b>	<p>毎年数件の福祉学習を地域の学校や団体から依頼を受けて実施するとともに、浜田市健康福祉フェスティバルに参加し、来場者に点字体験、手話体験の機会を提供している。</p> <p>また、地域の事業者を対象として、平成 26 年度から「窓口での聞こえにくい・聞こえない人とのコミュニケーション講座」を、平成 27 年度から「視覚障がい者対応研修」を実施している。</p>

<b>実行計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や団体の福祉学習を積極的に引き受けるとともに、浜田市健康福祉フェスティバルに参加し、児童生徒や住民の視聴覚障がいへの理解を促進する。</li> <li>・官公庁や公共施設等へ出向き、窓口職員を対象として「窓口での聞こえにくい・聞こえない人とのコミュニケーション講座」を実施する。</li> <li>・視覚障がい者の来訪がある職場に出向き、「視覚障がい者対応研修」を実施する。</li> <li>・公的機関・団体が使用する封筒の点字印字を積極的に引き受ける。</li> </ul>
-------------	---

### 『島根あさひ社会復帰促進センターの活用』

<b>課題</b>	<p>増大する利用者の要望に応じていくため、より多くの作業を「あさひ」に依頼する必要がある。</p>
<b>現状</b>	<p>単純作業の多くを「あさひ」に依頼し、省力化を図ることで、生じた余力を利用者へのより充実したサービス提供に振り向けている。</p> <p>雑誌や市町広報紙等の製作は、スピードが求められる上に作業に時間を要することから、カセットテープ・CD コピーなど多くの作業を「あさひ」に依頼している。</p> <p>テキストデイジー図書を製作するために行う図書のテキストデータ化作業は、専用の機器（スキャナー）が必要であるとともに単純作業であることから、そのすべてを「あさひ」に依頼している。その反面、「あさひ」にテキストデータ化作業をどれだけ引き受けてもらえるかで、センターのテキストデイジー図書の製作数が決まる状況となっている。</p>
<b>実行計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの図書のテキストデータ化作業を引き受けてもらえるよう「あさひ」と協議する。</li> <li>・利用者ニーズに沿った新サービスの提供に向け、「あさひ」の活用可能性を検討し、新たな作業の依頼について「あさひ」と協議する。</li> </ul>

### 3 事業実施計画

<b>【点字図書館事業】</b>
<p>1 施設のPR及びニーズに即したサービスの提供による利用者の拡大</p> <p>(1) 施設の業務内容の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県の広報媒体を使ってセンターの業務内容の周知を図るよう依頼するとともに、各市町福祉窓口、公共施設、社会福祉施設、眼科医等を訪問し、センターのパンフレットや利用案内（墨字・点字・録音）、広報用チラシの配布、関係機関・団体の広報紙やホームページへの紹介記事の掲載依頼を行うなど、あらゆる機会を捉えてセンターの業務内容の周知を図る。</li> </ul> <p>(2) インターネットを使った施設情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センターのホームページ及びフェイスブックで施設情報を発信する。</li> </ul> <p>(3) 利用者ニーズに即したサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業推進会議で提出された意見等を基に利用者ニーズに即したサービスの提供を図る。</li> <li>・マルチメディアデイジー図書製作の可能性を検討する。</li> </ul> <p>2 図書の製作及び貸出し</p> <p>(1) 良質な点字図書、録音図書（カセットテープ、デイジー）、テキストデイジー図書の製作</p> <p>(2) 点字図書、録音図書、テキストデイジー図書、拡大図書の閲覧、貸出し</p> <p>(3) 録音雑誌の製作（月刊誌2、隔週誌1）、貸出し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期発行と内容の充実を図る。</li> </ul> <p>(4) 新刊情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙「かわらばん」の発行に併せて新刊の点字図書・録音図書の一覧表を作成し、配布する（年4回）。また、毎月、ホームページの新刊案内を更新する。</li> </ul> <p>(5) 各種ボランティアの募集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センターが主催する各種ボランティア養成講習会（点訳、朗読、デイジー編集、テキストデータ編集）の受講者を増やすため、県や市町の広報媒体を使って各種ボランティア募集の周知を図るよう依頼するなど、さまざまな機会や手段で募集の周知を図る。</li> </ul> <p>(6) 視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな機会をとらえて視覚障がい者及びボランティアに対してサピエの利用を呼び掛ける。</li> <li>・サピエを活用して図書及びレファレンスの充実を図る。</li> </ul> <p>(7) デイジー編集ボランティアの養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・録音図書・雑誌のデジタル製作及びそのスピードアップのため、デイジー編集ボランティア養成講習会を開催する。（年1回全5回）</li> </ul>

<p>(8) テキストデータ編集ボランティアの養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速な製作と早期の貸出しが可能なテキストデイジー図書を製作するため、テキストデータ編集ボランティア養成講習会を開催する。(年1回全5回)</li> </ul> <p>(9) 意欲的なボランティアの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な技術の習得に意欲があり、長期の活動が期待できるボランティアを点字指導員講習会、音訳指導技術講習会等へ派遣する。</li> </ul> <p>(10) 蔵書の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書の確認(所在、装丁等)、整理、除籍、データ管理等を図書整理日に実施する。</li> </ul> <p>(11) 島根あさひ社会復帰促進センターの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増加する利用者の希望に対応するため、島根あさひ社会復帰促進センターにある全視情協島根あさひ事業所にCD・カセットテープのダビング、アナログ情報のデジタル情報への変換、点字印字等の作業を依頼し、業務の効率化を図る。</li> <li>・図書のテキストデータ化作業の拡大及び新たな作業の導入の可能性について「あさひ」と協議する。</li> <li>・点訳科及び音訳科の訓練指導員のスキルアップを図る。</li> </ul> <p>(12) 業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定型的業務とその他の業務を組み込んだ週案を基に業務の効率化を図る。</li> </ul> <p>3 プライベートサービスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のプライバシーの保護に配慮し、利用者個々の多様なニーズに対応できる、きめ細かなプライベートサービスを実施する。</li> </ul> <p>4 日常生活用具等の紹介・斡旋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障がい者用の補装具、日常生活用具、便利グッズ等の情報を職員が共有し、利用者からの問い合わせや相談に対応できるようにする。</li> <li>・利用者からの求めに応じて日常生活用具等の紹介・斡旋を行う。</li> <li>・最新の機器情報や補装具・日常生活用具給付制度の改正等について、広報紙「かわらばん」及びホームページで情報発信する。</li> </ul>
<p><b>【聴覚障害者情報提供施設事業】</b></p> <p>1 施設のPR及びニーズに即したサービスの提供による利用者の拡大</p> <p>(1) 施設の業務内容の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県の広報媒体を使ってセンターの業務内容の周知を図るよう依頼するとともに、管内の各市町福祉窓口、公共施設、社会福祉施設等を訪問し、センターのパンフレットや利用案内、広報用チラシの配布、関係機関・団体の広報紙やホームページへの紹介記事の掲載依頼を行うなど、あらゆる機会を捉えてセンターの業務内容の周知を図る。</li> </ul> <p>(2) インターネットを使った施設情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センターのホームページ及びフェイスブックで施設情報を発信する。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな手話動画を制作し、ホームページに掲載する。</li> </ul> <p>(3) 利用者ニーズに即したサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業推進会議で提出された意見等を基に利用者ニーズに即したサービスの提供を図る。</li> </ul> <p>2 ビデオ (DVD) の貸出し</p> <p>(1) 字幕入り (手話入り) ビデオ (DVD) の閲覧、貸出し</p> <p>(2) 「ビデオライブラリー目録」(追加目録) の作成、配布 (年 1 回)</p> <p>(3) 巡回方式によるビデオの貸出し (希望により随時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大田以西の各障害者生活支援センター、ろう学校、障害者施設等への巡回を行う。</li> </ul> <p>(4) ビデオ (DVD) の相互貸借</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松江の聴覚障害者情報センターと連携を密にし、ビデオ (DVD) の相互貸借を円滑に行う。</li> </ul> <p>3 プライベートサービスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のプライバシーの保護に配慮し、利用者個々の多様なニーズに対応した「中継連絡サービス」を FAX 等を利用して実施する。</li> <li>・チラシ配布等により「スカイプを使った電話リレーサービス」の利用を促進する。</li> </ul> <p>4 日常生活用具等の紹介・斡旋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障がい者用の補装具、日常生活用具、便利グッズ等の情報を職員が共有し、利用者からの問い合わせや相談に対応できるようにする。</li> <li>・利用者からの求めに応じて日常生活用具等の紹介・斡旋を行う。</li> <li>・最新の機器情報や補装具・日常生活用具給付制度の改正等について、広報紙「かわらばん」及びホームページで情報発信する。</li> </ul>
<b>【地域生活支援事業】</b>
<p>1 点訳奉仕員養成事業</p> <p>(1) 点訳奉仕員養成講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜田市及び益田市で点訳奉仕員養成講習会を開催し、センターの点字資料の製作や地域での点訳活動ができる点訳ボランティアを養成する。(2会場×全23回)</li> </ul> <p>(2) 点訳ボランティア勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点訳技術向上のための勉強会を定期的で開催する(年6回)とともに、各点訳ボランティアグループの自主的な勉強会に職員を派遣し(2グループ×年10回)、点訳技術の向上と最新の情報提供に努める。</li> </ul> <p>(3) 点訳校正技術講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点訳校正技術の向上を図るため、点訳校正技術講習会を開催する。(年1回全2回)</li> </ul> <p>2 朗読奉仕員養成事業</p> <p>(1) 朗読奉仕員養成講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜田市及び益田市で朗読奉仕員養成講習会を開催し、センターの録音資料の製作</li> </ul>

<p>や地域での音訳活動ができる音訳ボランティアを養成する。(2会場×全23回)</p> <p>(2) 朗読ボランティア勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音訳技術向上のための勉強会を開催する(年1回)とともに、各音訳ボランティアグループの自主的な勉強会に職員を派遣し(2グループ×年10回)、音訳技術の向上と最新の情報提供に努める。</li> </ul> <p>(3) 音訳校正技術講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音訳校正技術の向上を図るため、音訳校正技術講習会を開催する。(年1回全2回)</li> </ul> <p>3 中途失明者生活訓練等事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県西部の中途失明者に対して歩行訓練、コミュニケーション訓練等を実施することで生活面での支援をする。</li> </ul> <p>4 島根県中部・西部障がい者情報化コミュニケーション支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者を対象にパソコン等の使用方法の講習を実施する。</li> <li>障がい者の求めに応じてパソコンボランティアを派遣する。</li> <li>必要に応じてパソコンボランティアのフォローアップ講習を実施する。</li> </ul> <p>5 各市からの受託事業</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 声の広報等発行事業(浜田市)</td> <td>12回(月1回)</td> </tr> <tr> <td>(2) 生活訓練(料理教室)事業(浜田市)</td> <td>24回(月2回)</td> </tr> <tr> <td>(3) 点字・声の広報等発行事業(益田市)</td> <td>12回(月1回)</td> </tr> <tr> <td>(4) 視覚障害者生活訓練事業(益田市)</td> <td>随時</td> </tr> <tr> <td>(5) 生活訓練事業(大田市)</td> <td>12回(月1回)</td> </tr> <tr> <td>(6) 点字・声の広報等発行事業(江津市)</td> <td>12回(月1回)</td> </tr> </table>	(1) 声の広報等発行事業(浜田市)	12回(月1回)	(2) 生活訓練(料理教室)事業(浜田市)	24回(月2回)	(3) 点字・声の広報等発行事業(益田市)	12回(月1回)	(4) 視覚障害者生活訓練事業(益田市)	随時	(5) 生活訓練事業(大田市)	12回(月1回)	(6) 点字・声の広報等発行事業(江津市)	12回(月1回)
(1) 声の広報等発行事業(浜田市)	12回(月1回)											
(2) 生活訓練(料理教室)事業(浜田市)	24回(月2回)											
(3) 点字・声の広報等発行事業(益田市)	12回(月1回)											
(4) 視覚障害者生活訓練事業(益田市)	随時											
(5) 生活訓練事業(大田市)	12回(月1回)											
(6) 点字・声の広報等発行事業(江津市)	12回(月1回)											
<b>【行事、会議等の開催計画】</b>												
<p>1 「セミナー&amp;交流会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障がいの利用者のニーズに即した情報提供や体験、学習、利用者・意思疎通支援者・職員との交流、機器紹介等を行う「セミナー&amp;交流会」を開催する。(年1回)</li> </ul> <p>2 「利用者とボランティアのつどい」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日ごろ会う機会の少ない視覚障がいの利用者とボランティア・職員との交流・意見交換、学習、機器紹介等を行う「利用者とボランティアのつどい」を開催する。(年1回)</li> </ul> <p>3 事業推進会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な事業の推進のため、関係機関・団体と情報交換、意見交換を行う事業推進会議を開催する。(年1回)</li> <li>必要に応じて関係機関・団体との連絡会議を開催する。(随時)</li> </ul> <p>4 各種制度説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の希望に応じて医療、社会保障、税制等の各種制度の説明会を開催する。</li> </ul>												

<p>5 職員会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内の連絡調整と業務の円滑な遂行のため、定期的に職員会議を開催する。</li> </ul>
<p><b>【施設内研修計画】</b></p>
<p>1 基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業団人材育成基本方針に基づき研修を実施する。</li> </ul> <p>2 職員の専門的能力の育成及び資格取得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障がい者 ICT 活用支援能力の育成及び点字指導員の資格取得を目指して引き続き OJT を実施する。</li> </ul> <p>3 関係団体主催の講習・研修への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国視覚障害者情報提供施設協会、中国四国点字図書館連絡協議会等が主催する研修会に積極的に参加する。</li> </ul> <p>4 所内研修の実施</p> <p>4月 「平成30年度事業団重点活動方針及びセンター事業計画の実施について」</p> <p>6月 専門研修</p> <p>8月 専門研修</p> <p>10月 人権・同和問題研修</p> <p>12月 専門研修</p> <p>3月 「今年度事業を振り返って」</p>
<p><b>【安全衛生計画】</b></p>
<p>健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設として職員の健康管理に十分に留意し、労働安全衛生法に基づき、年1回の健診を実施する。</li> <li>・職員の健康管理にあたり、「心の健康」に関する研修に積極的に参加する。</li> </ul>
<p><b>【その他の計画】</b></p>
<p>1 施設及び事業の広報</p> <p>(1) 広報紙「かわらばん」の発行(年4回)</p> <p>(2) ホームページ及びフェイスブックの更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ最新の情報を提供するよう更新に努める。</li> </ul> <p>2 機器展示・生活相談会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県聴覚障害者情報センター及びライトハウスライブラリーと協力して、必要に応じて各地で機器展示・生活相談会を開催する。(年4回)</li> </ul> <p>3 各市町のボランティア・意思疎通支援者養成事業への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町が実施する各種のボランティア・意思疎通支援者養成事業に対して積極的に支援する。</li> </ul> <p>4 地域活動の実施</p> <p>(1) 学校等の福祉学習への支援</p>

- ・学校や団体の福祉学習を積極的に引き受け、障がい者への理解を促進する。
- (2) 浜田市健康福祉フェスティバルへの参加
- ・浜田市主催の健康福祉フェスティバルに参加し、来場者に点字や手話の体験などをしてもらうことで、視聴覚障がいへの理解を促進する。
- (3) 聴覚障がい者との意思疎通を支援する講座の実施
- ・官公庁、公共機関、銀行等の窓口職員を対象として「窓口での聞こえにくい・聞こえない人とのコミュニケーション講座」を実施する。
- (4) 視覚障がい者への対応を支援する研修の実施
- ・視覚障がい者の来訪がある職場の職員を対象として「視覚障がい者対応研修」を実施する。
- (5) 封筒の点字印字
- ・公的機関・団体が使用する封筒への点字印字を引き受ける。